

全国的に見たオオタバコガの最近の発生状況

農林水産省野菜・茶業試験場 ^{はま}浜 ^{むら}村 ^{てつ}徹 ^{ぞう}三

はじめに

オオタバコガは古くから日本に発生していたが、農作物の害虫として問題になることは少なかった。しかし、1994 年と 95 年に大発生して以来、多くの作物に発生するようになった(吉松, 1995)。筆者は前報(1998)において、1996 年と 97 年の全国におけるオオタバコガとタバコガの発生状況について報告した。それ以降もアンケート調査を続行してきたので、ここでは 1998 年と 99 年の結果を報告し、さらに、全国平均で見た場合の 4 年間の発生推移を明らかにする。

アンケートにご協力いただいた各府県の回答者や担当者に謝意を表する。

I フェロモントラップによる調査方法

フェロモン源として、サンケイ化学製のオオタバコガ用およびタバコガ用のフェロモンキャップが用いられた。トラップもサンケイ化学製の SE トラップが多く用いられたが、一部の多発県ではファネルトラップも使われた。調査間隔は 5 日(半旬)が多く、次いで 7 日ごと、一部の地点では毎日調査された。フェロモンキャップは原則として 1 か月に一度交換された。

アンケート調査の方法は年次によって多少変化したが、オオタバコガとタバコガの誘殺データの生の数字の提供を中心とし、調査地点の周辺作物、調査間隔、被害発生状況等についての意見も聞いた。

II 各府県における 1998、99 年のタバコガ類の発生状況

各地点における両年のタバコガ類の発生状況は前報(浜村, 1998)同様、年間の総誘殺数を用いて示した(表-1, 2)。タバコガのトラップが設置された地点ではオオタバコガのトラップもペアで設置されたので、そこでの誘殺数はその地点における両種の発生量を反映していると考え、地点ごとに優占種を判定した。判定の方法は少ないほうの 2 倍以上が誘殺された場合は優占種と

して○印を付し、2 倍未満の場合はやや多い種として△印を付した。ただし、両種とも 10 個体以下の誘殺数の場合は判定しなかった。表-1, 2 の周辺作物の項はその地点の作物であったり、その地域の主要作物であったりするので、必ずしも幼虫がその作物で発生したわけではない。

アンケートの回答は 1998 年は 25 府県、99 年は 26 府県から得られた。両年における各府県の発生の特徴を以下に述べる。

秋田県は両年とも 4 地点でオオタバコガのみが調査されたが、いずれもごく少発生であった。茨城県は両年ともよく似た発生状況で、オオタバコガは少なかったが、タバコガは比較的多かった。群馬県は両年とも昭和村のレタスでオオタバコガが多く(300~400 個体)、平地の前橋市、赤堀町ではタバコガが優占した。埼玉県は両年とも両種が中程度(100~200 個体)に発生したが、タバコガの方がやや多かった。神奈川県は横浜市(キャベツ)、三浦市(ダイコン)でオオタバコガの発生が極めて多く、1999 年の 2,312 個体は両年を通じて全国でも最多誘殺数であった。山梨県では石和町と八代町のナスで、98 年は両種とも多発生し(400~1,000 個体)、99 年はやや減少したものの 200~400 個体が誘殺された。長野県はレタスを中心にオオタバコガの多発生が続いており、500 個体以上の地点は、98 年は 8 地点、99 年は 5 地点であった。静岡県では浜松市のキク 2 地点で、両年ともオオタバコガが 500 個体以上の多発生をした。富山県では 10 地点で調査されたが、両年とも多発生の地点はなかった。石川県では金沢市のトマトで、オオタバコガが両年とも 300 個体以上でやや多く発生し、タバコガは 99 年に同程度に多発した。愛知県、三重県は両年とも少発生であった。滋賀県は両種が両年とも中程度の発生であった。京都府のオオタバコガは 98 年に亀岡市で 308 個体であったが、99 年は 164 個体に減少した。山城町ではタバコガが 99 年に 258 個体でやや多かった。大阪府のオオタバコガは八尾市のキクで 98 年は 487 個体と多かったが、99 年は 120 個体に減少した。兵庫、和歌山、島根の 3 県は両年、両種とも全般に少発生であった。広島県のオオタバコガは東広島市で 98 年に 334 個体でやや多かったが、99 年は 12 個体に激減した。愛媛県は全般に少発生であったが、98 年松前町でオオタバ

Recent Occurrence of *Helicoverpa armigera* All Over Japan.
By Tetsuzo HAMAMURA

(キーワード: オオタバコガ, タバコガ, フェロモントラップ, 年間誘殺数, 被害作物)

表-1 タバコガ類のフェロモントラップ調査に関するアンケート結果の概要 (1998) (その1)

県名	設置地点（周辺作物）	年間総誘殺数 ^{a)}			県全体での オオタバコガの 比率（％）	回答者	
		オオタバコガータバコガ					
秋田	秋田市		9—			新山徳光	
	森吉町		0—				
	中仙町		8—				
	横手市（トマト）		2—				
茨城	岩門町（場内）		4—	93	○	4.1	長塚 久
群馬	前橋市（場内）		6—	135	○	60.0	小林 学
	赤堀町（ミニトマト）		25—	201	○		
	白沢村（トマト）	○	44—	3			
	月夜野町（トマト）	○	27—	11			
	昭和村（レタス）	○	443—	13			
			(545—	363)			
埼玉	久喜市（場内）		106—	179	△	37.2	鳥居恵実
神奈川	平塚市（場内 A）	△	296—	202	○	51.8	阿久津四良
	平塚市（場内 B）		86—	199			
	藤沢市	△	194—	135			
			(576—	536)			
	三浦市（ダイコン）		527—				
	横浜市（キャベツ）		1,593—				
山梨	石和町（ナス）	△	616—	427		64.2	内山一秀
	八代町（ナス）	○	1,065—	511			
			(1,681—	938)			
長野	須坂市（場内）	○	174—	0		89.2	有賀則夫
	長野市（場内）	○	103—	10			
	塩尻市（場内）	○	190—	5			
	高森町（場内）	○	180—	63			
			(647—	78)			
	小諸市 1（レタス）		806—				
	小諸市 2（レタス）		596—				
	御代田町広戸（レタス）		1,107—				
	御代田町草越（レタス）		868—				
	御代田町追分道（レタス）		983—				
	御代田町馬瀬口（レタス）		940—				
	川上村居倉（レタス）		43—				
	川上村樋沢（レタス）		581—				
	川上村秋山（レタス）		256—				
	松本市（レタス）		308—	「371」			
	塩尻市洗馬（レタス）		253—	「348」			
	塩尻市塩尻（レタス）		49—	「28」			
	朝日村（レタス）		564—	「323」			
	波田村（スイカ）		373—				
	飯田市 1（トマト）		17—				
	飯田市 2（トマト）		0—				
	飯田市上郷（キュウリ）		204—				
	高森町（トマト）		105—				
	阿南町（トマト）		0—				

^{a)} : ○は優占種 (2 倍以上), △はやや優占種 (2 倍以下), ただし同種とも 1 ケタの場合は判定せず。

表-1 タバコガ類のフェロモントラップ調査に関するアンケート結果の概要 (1998) (その2)

県名	設置地点（周辺作物）	年間総誘殺数 ^{a)}				県全体での オオタバコガの 比率（％）	回答者
		オオタバコガータバコガ					
静岡	浜松市和地（キク）	○	1,069	—	370	60.5	青野 守
	浜松市館山寺（キク）		125	—	471		
	浜松市伊佐地（キク）	○	571	—	193		
	豊田町（場内）		281	—	304		
			(2,046	—	1,338)		
石川	金沢市（場内）		3	—		59.6	藪 哲男
	鶴来町		153	—			
	金沢市打木（トマト）	○	361	—	151		
	松任市倉部（アブラナ）		104	—	164		
			(465	—	315)		
愛知	長久手町（キャベツ）		14	—	24	36.8	松崎聖史
富山	朝日町（キク）		4	—	14	31.1	村崎信明
	黒部市（キク）		1	—	4		
	上市町（カーネーション）		1	—	6		
	上市町（バラ）		4	—	10		
	富山市（トマト）		2	—	5		
	富山市（ナス）	△	18	—	14		
	大島町（キク）		1	—	10		
	八尾町（キク）		17	—	26		
	新湊市（キク）		2	—	21		
	立山町（バラ）		0	—	1		
		(50	—	111)			
三重	安濃町（キャベツ）		19	—	68	22.7	浜村徹三
	安濃町（場内）		13	—	41		
			(32	—	109)		
滋賀	安土町（場内）		128	—	213	37.5	湯浅和宏
京都	京田辺市（場内）	○	23	—	11	60.7	福井正男
	亀岡市（場内）	○	308	—	111		
	弥栄町（場内）		11	—	99		
			(342	—	221)		
大阪	羽曳野市（場内）	○	154	—	24	86.5	柴尾 学
	八尾市（キク）		487	—			
	岸和田市（キク）		28	—			
兵庫	山田町 A（キク）		0	—	2	25.0	二井清友
	山田町 B（キク）		2	—	5		
	押部谷町 A（キク）		3	—	13		
	押部谷町 B（キク）		4	—	7		
			(9	—	27)		
和歌山	貴志川町（場内）		90	—		—	井口雅裕
	御坊市（エンドウ）		43	—	「455」シロイチ		

^{a)}：○は優占種 (2 倍以上), △はやや優占種 (2 倍以下), ただし同種とも 1 ケタの場合は判定せず。

コガが 256 個体とやや多かったが, 99 年には 45 個体に減少した。高知県は 98 年に大方町でタバコガが 288 個体であったが, 99 年は 91 個体に減少した。オオタバコガは両年とも少なかった。長崎県は両年, 両種とも少発生であった。熊本県のオオタバコガは苓北町のレタスで

98 年は 456 個体と多発生であったが, 99 年は調査されなかった。タバコガは合志町において両年とも 200 個体以上とやや多かった。宮崎県のオオタバコガは西都市で 98 年は 509 個体から 99 年 24 個体に激減したが, タバコガは 98 年 768 個体, 99 年 450 個体で両年とも多発生

表-1 タバコガ類のフェロモントラップ調査に関するアンケート結果の概要 (1998) (その3)

県名	設置地点（周辺作物）	年間総誘殺数 ^{a)}			県全体での オオタバコガの 比率（％）	回答者
		オオタバコガータバコガ				
島根	出雲市（屋上）	2—	4	(3,659)ハスモン		奈良井祐隆
	出雲市（キャベツ）	2—				
	益田市（庭先）	11—				
広島	東広島市（場内）	334—				林 英明
	能美町（キク）	93—	「255」シロイチ			
	三次市（キク）	13—				
	向島町江奥（カーネーション）	17—				
	向島町立花（カーネーション）	3—				
愛媛	北条市（野菜，花）	46—	59	△		金崎秀司
	松山市	44—	82	△		
	川内市（キク）	△	23—	22		
	久万町（トマト）	△	36—	11		
	松前町	○	256—	95		
			(405—	269)	60.0	
高知	安芸市（タバコ，ナス）	37—	62	△		高橋尚之
	南国市（場内）	91—	116	△		
	大方町（花）	137—	288	○		
		(265—	466)	36.3		
長崎	諫早市（場内）	17—	44	○	27.9	横溝徹世敏
	飯盛町（カーネーション）	76—				
	佐世保市（場内）	92—				
熊本	合志町（場内）	254—	281	△		古家 忠
	苓北町（レタス）	○	456—	72		
			(710—	353)	66.8	
宮崎	西都市（ジャガイモ）	509—	768	△	39.9	黒木文代
鹿児島	鹿児島市（場内）	○	295—	58		上和田秀美
	指宿市（オクラ）	○	761—	344		
	串良町（場内）		424—	909	○	
			(1,480—	1,311)	53.0	

^{a)}: ○は優占種 (2倍以上), △はやや優占種 (2倍以下), ただし同種とも1ヶタの場合は判定せず。

であった。鹿児島県は両種とも98年は多発傾向, 99年はやや減少の傾向が見られる。オオタバコガは指宿市のオクラで98年761個体から99年359個体へ, タバコガは串良町で909個体から, 445個体へ減少したが, なお余断を許さない状況である。

各府県のタバコガ類の発生状況の概要を述べたが, 99年の時点でなおオオタバコガが多発生して問題になっている地域は関東・中部の一部と南九州である。

III 全国平均で見た発生状況の推移

アンケート調査を実施した過去4年間について検討した。オオタバコガとタバコガがペアで調査された地点における優占種の年次変化を表-3に示した。1996年はオオタバコガの多い地点が67%を占めたが, 97, 98年

はそれぞれ48, 46%になり, 99年は42%と明らかに減少した。県全体でどちらの種が優占したかを見た値も同様の傾向で, オオタバコガが多かった県は96年68%であったが, 97, 98年は52%になり, 99年は27%まで落ち込んだ。

地域やペアの有無を無視し, 1トラップ当たりの年間総誘殺数の頻度分布と全国平均を表-4に示した。1996~98年のオオタバコガの平均誘殺数は220個体弱でほとんど変化していないが, 99年になって144個体と明らかに減少した。タバコガの平均誘殺数は1996, 97, 99年は90個体前後で安定している。98年のみが130個体でやや多かった。

以上のことから, オオタバコガの発生地域は減少しているものの, 発生している地域では高密度に発生してい

表-2 タバコガ類のフェロモントラップ調査に関するアンケート結果の概要 (1999) (その1)

県名	設置地点（周辺作物）	年間総誘殺数 ^{a)}			県全体での オオタバコガの 比率（％）	回答者	
		オオタバコガータバコガ					
秋田	秋田市（場内）		13—		4.9	新山徳光	
	森吉町（トマト）		0—				
	雄物川市（トマト）		0—				
	横手市（トマト）		16—				
茨城	岩間町（場内）		5—	98	○	長塚 久	
群馬	前橋市江木町（場内）		26—	209	○	小林 学	
	赤堀町（ミニトマト）		49—	175	○		
	白沢村（トマト）	○	158—	8			
	月夜野町（トマト）	△	29—	23			
	昭和村（レタス）	○	322—	6			
			(584—	413)			58.6
埼玉	久喜市（場内）		133—	149	△	47.2	鳥居恵実
神奈川	三浦市（ダイコン）	○	298—	95		阿久津四良	
	横浜市（キャベツ）	○	2,312—	98			
			(2,610—	193)		93.0	
山梨	石和町（ナス）	△	325—	200		内山一秀	
	八代町（ナス）	○	403—	196			
			(728—	396)			64.8
長野	須坂市（場内）	○	61—	2		有賀則夫	
	塩尻市（場内）	○	59—	9			
	高森町（場内）		101—	191	△		
	伊那市大萱（トマト）	○	95—	23			
			(316—	225)			58.4
	小諸市1（レタス）		1,007—				
	小諸市2（レタス）		613—				
	御代田町広戸（レタス）		53—				
	御代田町13町歩（レタス）		63—				
	御代田町追分道（レタス）		36—				
	御代田町小沼（レタス）		505—				
	川上村居倉（レタス）		63—				
	川上村樋沢（レタス）		575—				
	川上村秋山（レタス）		131—				
	松本市今井（レタス）		40—	「182」	「 」はシロイチモジヨトウ		
	塩尻市洗馬（レタス）		110—	「233」			
	塩尻市広丘（レタス）		111—	「 84」			
	朝日村（レタス）		294—	「255」			
	波田村（スイカ）		323—				
	梓川村（ミニトマト）		129—				
	飯田市竜丘（キュウリ）		22—				
	飯田市上郷（カーネーション）		129—				
	高森町（カーネーション）		28—				
	阿南町新野（トマト）		1—				

^{a)} : ○は優占種 (2 倍以上), △はやや優占種 (2 倍以下), ただし同種とも 1 ケタの場合は判定せず。

ることがうかがえる。

IV 被害作物

過去 4 年間のアンケート調査の中で、オオタバコガが

年間 500 個体以上誘殺された地点と周辺作物を表-5 に示した。横浜市のキャベツ、山梨県のナス、長野県のレタス、浜松市のキクのように、特定の地域で特定の作物に連続的に多発生する傾向が見られる。現在最も被害の

表-2 タバコガ類のフェロモントラップ調査に関するアンケート結果の概要 (1999) (その2)

県名	設置地点（周辺作物）	年間総誘殺数 ^{a)}				県全体での オオタバコガの 比率（％）	回答者
		オオタバコガ・タバコガ					
長野	駒ヶ根市（トマト）		117—				
	辰野町樋口（リンドウ）		135—				
	池田町中鶴（カーネーション）		95—				
	牟礼村（レタス）		168—				
	信濃町（トマト）		730—				
	飯山市旭（トマト）		51—				
	飯山市岡山（トマト）		113—				
	木島平村（トマト）		193—				
	栄村（トマト）		2—				
静岡	浜松市和地（キク）	○	521—	151			青野 守
	浜松市伊左地（キク）	○	576—	98			
	豊田町（場内）		125—	148	△		
			(1,222—	397)		75.5	
石川	金沢市（場内）		0—				藪 哲男
	宇ノ気町内日角（ダイコン）		35—	118	○		
	金沢市打木（トマト）		343—	376	△		
	松任市倉部（レタス）		188—	221	△		
			(566—	715)		44.2	
愛知	長久手町（園芸研場内）		20—	21	△		松崎聖史
	長久手町（花き研場内）		11—	29	○		
			(31—	50)		38.3	
富山	朝日町（キク）		12—	12			村崎信明
	黒部市（キク）		2—	6			
	上市町（カーネーション）		2—	3			
	上市町（バラ）		1—	2			
	富山市（トマト）		0—	4			
	富山市（ナス）	△	29—	24			
	大島町（キク）		0—	2			
	八尾町（キク）	△	44—	31			
	福野町（キク）		1—	28	○	「4647」ハスモンヨトウ	
	立山町（バラ）		0—	1			
		(91—	140)		39.4		
三重	安濃町（キャベツ）		25—	58	○		浜村徹三
	安濃町（場内）		9—	66	○		
			(34—	124)		21.5	
滋賀	安土町（場内）		240—	269	△	37.5	湯浅和宏

^{a)} : ○は優占種 (2 倍以上), △はやや優占種 (2 倍以下), ただし同種とも 1 ケタの場合は判定せず。

大きい作物は長野県を中心としたレタスである。また、和歌山県のエンドウ、指宿市のオクラのようにその地域の重要作物で多発し、重大問題になることもある。

各県からアンケートで求めた被害作物を前報で示したが、一部追加したものを表-6 にまとめた。最も多くの県が上げた被害作物はトマトで、回答した 21 県のうち 19 県が上げた。トマトは作付面積が多いこともあり、最も普遍的に被害を受けている作物といえる。次いでキクの 14 県、ナスの 11 県、バラ、キャベツの 9 県、カー

ネーションの 7 県、ピーマン 6 県、レタス 5 県のほか、スイカ、イチゴ、オクラなど 30 種以上の作物が報告された。これらの中にはオオタバコガの幼虫であることが確認された場合もあったが、トラップの誘殺状況から見て、タバコガの混発の可能性もあるので、あえて被害作物を種によって分けることをしなかった。

お わ り に

1994 年に始まったオオタバコガの突発的大発生は 5、

表-2 タバコガ類のフェロモントラップ調査に関するアンケート結果の概要 (1999) (その3)

県名	設置地点（周辺作物）	年間総誘殺数 ^{a)}				県全体での オオタバコガの 比率（％）	回答者
		オオタバコガータバコガ					
京都	京田辺市（場内）	△	13	12		29.5	福井正男
	亀岡市（場内）	○	164	62			
	弥栄町（場内）		12	84	○		
	舞鶴市		1	93	○		
	京都府山城町		23	258	○		
			(213	509)			
大阪	羽曳野市（場内）	△	77	74		51.0	柴尾 学
	八尾市（キク）		120				
	岸和田市（キク）		265				
兵庫	山田町 A（キク）		2	1		20.8	二井清友
	山田町 B（キク）		0	3			
	押部谷町 A（キク）		11	25	○		
	押部谷町 B（キク）		0	17	○		
	押部谷町 C（キク）		3	15	○		
	—		(16	61)			
和歌山	貴志川町（場内）		22			—	井口雅裕
	御坊市（エンドウ）		53				
島根	出雲市（場内）		34				奈良井祐隆
	益田市（庭先）		0	(5,912)	ハスモン		
広島	東広島市（場内）		12	109	○	9.9	星野 滋
徳島	石井町		1	39		2.5	病虫害防除所
愛媛	北条市（場内）	△	35	34		45.9	金崎秀司
	久万町（トマト）	△	10	9			
	松前町		45	63	△		
			(90	106)			
高知	安芸市（タバコ、ナス）		10	13	△	23.8	高橋尚之
	南国市（場内）		34	140	○		
	大方町（花）		32	91	○		
			(76	244)			
長崎	諫早市（場内）		9	22	○	29.0	横溝徹世敏
	飯盛町（カーネーション）		17				
	長崎市		31				
	佐世保市（場内）		99				
熊本	合志町（場内）		165	246	△	40.1	古家 忠
宮崎	西都市		24	450	○	5.1	中岡直士
鹿児島	鹿児島市（場内）	○	134	36		49.3	上和田秀美
	指宿市（オクラ）	○	359	152			
	串良町（場内）		122	445	○		
			(615	633)			

^{a)} : ○は優占種 (2 倍以上), △はやや優占種 (2 倍以下), ただし同種とも 1 ケタの場合は判定せず。

6 年を経過して、ほぼ沈静化した地域と依然として多発生が続いている地域に分かれた。1999 年のデータ (表-6) で見ると、暖地では下火の傾向で、関東、中部の高冷地が連続的に多発生しているといえる。今後これらの発生は気象条件に左右されながら、継続していくものと

考えられる。

全国的に発生したオオタバコガが、分類上同一のものであるか否かは興味もたれる。現在、分子生物学的手法や、休眠性など生理生態的特性の変異を調べる方法で検討されている。

表-3 両種がベアーで調査された地点における優占種^{a)}の年次変化

種 名	優占(○)	やや優占(△)	合計	県全体での優占種
1996(平成8)年				
オオタバコガ	19 地点	12 地点	31 地点(67.4%)	13 県(68.4%)
タバコガ	8	7	15(32.6%)	6(31.6%)
1997(平成9)年				
オオタバコガ	18	8	26(48.1%)	11(52.4%)
タバコガ	16	12	28(51.9%)	10(47.6%)
1998(平成10)年				
オオタバコガ	18	6	24(46.2%)	11(52.4%)
タバコガ	16	12	28(53.8%)	10(47.6%)
1999(平成11)年				
オオタバコガ	13	8	21(42.0%)	6(27.3%)
タバコガ	19	10	29(58.0%)	16(72.7%)

^{a)}：○は他種より2倍以上、△は2倍以下だが多い場合。

表-4 トラップ当たり年間総誘殺数の頻度分布と平均誘殺数

種 名	年間総誘殺数					トラップ 総数	トラップ当たり 平均誘殺数
	100 以下	100～	300～	500～	1,000～		
1996(平成8)年							
オオタバコガ	33(53.2%)	13(21.0)	10(16.1)	3(4.8)	3(4.8)	62	219.3
タバコガ	34(66.7%)	14(27.5)	3(5.9)	0	0	51	89.7
1997(平成9)年							
オオタバコガ	43(53.1%)	25(30.9)	2(2.5)	8(9.9)	3(3.7)	81	216.0
タバコガ	35(61.4%)	20(35.1)	2(3.5)	0	0	57	91.2
1998(平成10)年							
オオタバコガ	54(54.0%)	21(21.0)	9(9.0)	12(12.0)	4(4.0)	100	218.2
タバコガ	38(63.3%)	14(23.3)	5(8.3)	3(5.0)	0	60	129.7
1999(平成11)年							
オオタバコガ	61(61.6%)	24(24.2)	6(6.1)	6(6.1)	2(2.0)	99	144.1
タバコガ	42(70.0%)	15(25.0)	3(5.0)	0	0	60	92.2

表-5 オオタバコガが年間500個体以上誘殺された地点と周辺作物

県名	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年
神奈川	横浜市（キャベツ）	横浜市（キャベツ） 三浦市（ダイコン）	横浜市（キャベツ） 三浦市（ダイコン）	横浜市（キャベツ）
山梨	石和町（ナス）	石和町（ナス）	石和町（ナス） 八代町（ナス）	
群馬		昭和村（レタス）		
長野		小諸市（レタス） 御代田町（レタス） 川上村（レタス） 朝日村（レタス）	小諸市（レタス，2 か所） 御代田町（レタス，4 か所） 川上村（レタス） 朝日村（レタス）	小諸市（レタス，2 か所） 御代田町（レタス） 川上村（レタス） 信濃町（トマト）
静岡	浜松市（キク）	浜松市（キク）	浜松市（キク，2 か所）	浜松市（キク，2 か所）
大阪	八尾市（キク）			
和歌山	印南町（エンドウ）			
愛媛		松前町（水田）		
宮崎			西都市（ジャガイモ）	
鹿児島	鹿児島市（場内）	鹿児島市（場内）	指宿市（オクラ）	

表-6 各県におけるタバコガ類の被害作物

県名	トマトナス	ピーマン	キャベツ	レタス	キク	パセリ	カーネーション	その他
秋田	○			○				キュウリ、アマランサス
群馬	○	○			○			スイカ、スイートコーン、ホオズキ
埼玉	○	○		○		○		ブロッコリー、飼料用トウモロコシ
神奈川	○	○	○	○		○		スイカ、メロン、カボチャ、トウガン、シクラメン
山梨	○	○				○	○	キュウリ、スイートコーン
長野	○		○	○	○	○	○	キュウリ、スイカ、ハクサイ、アスパラガス、トルコギキョウ
静岡	○			○	○	○	○	スイカ、メロン、ジャガイモ、ダイズ、ガーベラ、イチゴ
富山	○	○				○	○	
愛知		○					○	
滋賀	○		○	○				ダイコン、ハクサイ、(セイダカアワダチソウ)
京都	○	○	○	○			○	トウガラシ、トルコギキョウ
大阪	○	○				○		キュウリ、ケイトウ、トルコギキョウ
和歌山	○	○				○	○	エンドウ
島根	○			○		○		スイートコーン
広島	○					○	○	トルコギキョウ、キヌサヤエンドウ
徳島						○		オクラ、イチゴ、アブラナ科野菜
愛媛	○		○		○	○	○	
高知	○	○	○					オクラ、ショウガ
長崎	○	○				○	○	ジャガイモ、イチゴ、ピワ
熊本	○				○	○		
鹿児島	○			○		○		オクラ、イチゴ、スイカ、スイートコーン、エンドウ、ソラマメ、トルコギキョウ
県数	19	11	6	9	5	14	9	7

防除法については、発生当初は登録農薬もなく困難を極めたが、日本植物防疫協会による特別連絡試験も実施され、BT 剤、アファーム剤などの有効薬剤が明らかになり、各作物での登録が促進されつつある。しかしながら、本種は幼虫が植物（果実）内にもぐり込むこと、卵は 1 粒ずつ産まれステージが不揃いになることなどの生態的要因や老齢幼虫は薬剤感受性が低いなどの理由で、

防除効果が上がりにくい害虫である。したがって、防除に当たっては化学的防除のみに頼ることなく、施設においては侵入防止対策、黄色蛍光灯の利用なども取り入れて総合的に防除する必要がある。

引 用 文 献

- 1) 浜村徹三 (1998): 植物防疫 52: 407~413.
- 2) 吉松慎一 (1995): 同上 9: 495~499.

中 央 だ よ り

○政府は 6 月 7 日付けで「農林水産省組織令」を制定（平成 13 年 1 月 6 日から施行）した。

これにより、「生産局植物防疫課」が「病害虫の防除（蚕病の予防に関するものを除く。）及び輸出入に係る植物の検疫に関する事務」を、「生産局生産資材課」が「肥料、農機具、農薬その他の農業専用物品（蚕糸業専用物品を除き、林業専用物品を含む。）の生産、流通及び消費の増進、改善及び調整に関する（農産振興課及び経済産業省がその生産を所掌する肥料の生産に関するものを除く。）事務」をつかさどることと制定され、「農薬の安全性の確保に関すること（農薬にあつては、環境省の所掌に属するものを除く。）」と「農業資材審議会の庶

務に関すること」は生産資材課がつかさどることとなる。

○「中央省庁等改革のための農林水産省関係省令の整備に関する政令」を 6 月 7 日付けで公布し、「農林水産技術会議令」や「農薬取締法施行令」などの一部が整備され、平成 13 年 1 月 6 日より施行される。

○「農林水産省独立行政法人評価委員会令」を 6 月 7 日付けで公布し、独立行政法人（平成 13 年 4 月 1 日）となる「種苗管理センター」、「農薬検査所」、「農業者大学校」などを農業分科会で、「農業技術研究機構」、「農業生物資源研究所」、「農業環境技術研究所」、「食品総合研究所」、「国際農林水産業研究センター」などを農業技術分科会で、「森林総合研究所」などを林野分科会などで処理する（平成 13 年 1 月 6 日施行）こととなった。